

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(3月17日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒が主体的に学習に取り組み、分かることが実感できるような、組織的な授業改善を推進する。 ②外部の教育資源を活用した幅広い教育課程を編成する。	①組織的な授業改善の手立てを「生徒主体の授業展開」と定め、生徒が自ら主体的に参加できる授業展開を追求する。	①生徒の特性、能力、取組みに応じてきめ細かくTT形態の授業を展開させ個別指導を行う。	①生徒の特性に応じた個別指導により、「生徒による授業評価」の「授業における充実感」の項目が昨年度よりも向上したか。	①組織的な授業改善の手立てとして「生徒主体の授業展開」をテーマとし、公開研究授業を実施した。アクティブラーニングの視点を踏まえた展開により「生徒の授業に対する充実感」が向上しつつある。	①学習における習熟度の差や母語の違いから、多様な生徒への指導方法には課題がある。個別対応を充実させるなど、きめ細かな対応で改善したい。	(保護者) ・定時制で学んだことに満足しているようだ。きめ細かな指導を継続して欲しい。 (学校評議員) ・外部教育機関との連携を充実させ、このような体験ができる機会を持ったことを評価できる。	・生徒の多様なニーズに応じた学習指導を行い、少人数学習やチームティーチングを取り入れ、生徒の学習状況に応じた指導を行い、成果を上げることができた。	・「西部総合職業技術校」他との連携をさらに推進し、総合学科ならではの多様な学び方のできる環境を整備する。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	①個々の生徒の状況掌握と情報共有によるきめ細かな指導体制を推進する。 ②自己肯定感の醸成による問題行動の未然防止に努める。	①支援にあり方について理解を深め、生徒一人ひとりの情報を把握、共有して、課題解決にあたる。	①個々の生徒の家庭環境や心身の状況等を把握し、教職員同士の情報共有と共通理解を図る。また、ケース会議等が必要に応じて開催するなど、教育相談体制を整備し、スクールカウンセラーや外部関係機関、専門機関との連携を図る。	①生徒情報の共有と共通理解を図る体制づくりができたか。また、ケース会議等の取組が、必要な生徒の指導に生かし、課題解決につながったか。	①SCやSSWの助言を得ながらケース会議を10回以上開催し、外部機関との連携を図り、生徒情報の共有と共通理解が深められた。	①現在、活用している養護学校の巡回相談員・スクールメンターなどのとの連携をさらに深め、困り感のある生徒の課題解決に努めたい。	(保護者) ①きめ細かな支援で、満足している。 (学校評議員) ①外部機関と連携して困り感のある生徒の課題解決に努めたことが評価できる。	①SCやSSWの助言を、外部機関との連携を図り、困り感のある生徒の課題解決に努めることができた。さらにきめ細かい支援を推進したい。	①SC、SSW、スクールメンター、養護学校の巡回指導員との相互連携をさらに深め、より良い支援体制を目指したい。
3 進路指導・支援	①基本的な学力を充実・向上させ、進路希望を達成させる。 ②社会人としての自覚と勤労意欲を育成する。	①社会人として必要な要素を理解し、自覚を持って社会へと出られるよう支援する。	①外部講師による「産業社会と人間」の授業等の回数を昨年度よりも増加させ、職種による必要な知識の違いを理解させる。	①外部講師による授業展開の回数や内容が昨年度より多く充実したものであったか。	①外部機関との連携によるキャリア教育を「産業社会と人間」の授業を中心に実施し、内容の濃いものとなった。	①外部教育機関との連携をさらに充実させ、より多くの機会を提供し、職員のスキル向上につなげていきたい。	(保護者) ・多種多様な経験を積むことができ、それが学習の成果として形に残るところが定時制のよいところだと思う。 (学校評議員) ・キャリア教育に関して、充実した取組みをされている。更なる継続と発展を期待する。 ・職業技術校との連携は本校の大きな強みである。ますます充実して欲しい。	・外部機関との連携は、生徒の興味関心を深めることはもちろん、働くことへのイメージ作りの一躍となった。	・各機関との連携を、さらに多様化し、生徒個々の進路実現に向け早い段階から意識を形成できるよう支援する。
4 地域等との協働	①保護者や近隣地域との協働体制を推進し、教育活動を積極的に外部に発信する。	①地域清掃等の地域貢献活動によって、近隣地域に信頼される取組を進める。	①夏休み明けの地域清掃活動等に全生徒を積極的に参加させる。また事後アンケートにより、生徒の自己肯定感について調べる。	①8割以上の生徒が地域清掃に参加し、自己肯定感を高めることができたか。	①8割の生徒が地域清掃に参加し、地域住民から声をかけられることにより自己肯定感を高めた。	①生徒会主催でも通学路清掃を行っているため、さらに取組内容を充実させ、地域に貢献している意識を高めさせたい。	(学校評議員) ①地域との協働は評価できる。来年度はさらに発展した活動を望む。	①8割以上の生徒が地域清掃に参加し、自己肯定感を高めることができた。	①地域との連携をさらに深め、生徒が将来の糧となるような活動を実践していきたい。

5	学校管理 学校運営	<p>①職員の学びあいによる人材育成を推進する。</p> <p>②外部連携による総合学科高校としての充実を図る。</p>	<p>①他の授業の良いところを取り込めるような機会を設定する。</p>	<p>①教科をこえて他の職員の授業を見学するなど他の授業の良いところを取り込める研究授業や研修会を実施する。</p>	<p>①充実した研究授業や研修会を実施し、職員の学び合いの場となったか。</p>	<p>①組織的な授業改善の取組が年間計画通り着実に実施することができた。職員の授業改善の意識が定着してきている。</p>	<p>①従来型の講義形式の授業が多いという実態がある。研究授業のための実践にならないよう、日常的な授業改善につなげていきたい。</p>	<p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OJTは人材育成の要と思われる。より一層の充実をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の学習会等を開催し、一定の成果をおさめることができた。</li> <li>・人材育成については、グループ毎の業務引き継ぎシートを整備し、経験の浅い職員を指導することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな視点に着目した校内研修会をさらに充実させ、人材育成に努める。</li> </ul>
---	--------------	--	-------------------------------------	--	--	--	---	---	--	--